

まちと公共施設の未来をともに創造する

第10回小千谷リビングラボ「at!おぢや」

■日時／2022年10月2日（日） 13:30 -16:30

■会場／総合産業会館サンプラザ3階大ホール

概要

現在、小千谷市では、旧小千谷総合病院跡地（本町1）に図書館等複合施設の整備を進めています。この事業では、施設の整備段階から、市民のみなさんと行政が新しい施設の活用方法や地域の価値・課題などについてともに考えていく場として小千谷リビングラボ「at!おぢや」を立ち上げ、継続的な活動を通じてオープン後の施設活用と中心市街地の活性化につなげていくことを目指しています。2020年3月第1回から開催を重ね、第2回以降は、設計者の平田晃久建築設計事務所（東京都）から設計検討内容についてご説明いただきながら、そこから想像する施設利用体験のイメージを対話・共有してきました。第10回となる今回は、「発+作アンカー」（デジタルものづくり工房）と「食アンカー」（カフェ）の二つのアンカーを題材に、具体的なイメージを共有しながら、そこで起こしてみたいプログラム（イベント）の企画書づくりに取り組みます。具体的に各アンカーでどのような体験を起こしてみたいか、一緒に考えていきましょう。

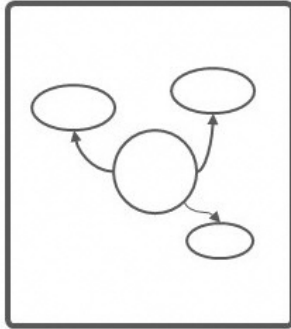
タイムテーブル

事業についての説明	13:30-13:45
リビングラボについて・オリエンテーション	13:45-14:10
対話「発・作アンカー、食アンカーでのプログラム企画書をつくろう」	
①資料読み込み・アイディアメモ [個人ワーク]	14:10-14:25
②チームビルディング [各アンカー]	14:25-14:35
③企画書作成 [各チーム]	14:35-15:45
(休憩 10分間)	
共有	15:55-16:25
ホンドナーの活動について（報告・PR）	16:25-16:29
まとめ	16:29-16:30

① アイディアメモ

アイディア出しのポイント

具体的に思い浮かばなければ、
連想される言葉をつないでみるだけでもOK



周りの人のアイディアを
聞いてみてもOK



具体的にアイディアが見えてきたら
イラストなどで表現すると
より考えが深まります



③ 企画書作成

企画書の作り方

背景・現状の課題

企画を考えるにあたって根拠となった背景や現状感じている課題と書く。
エピソードや根拠となるようなデータを添えられると説得力が増す。

企画によって何が実現するか

企画が実現することでどんないいことが起こるのか記載する。
効果が伝わることで企画に協力してもらえる仲間をつくりやすくなる。

第10回at!おちや グループ対話
アンカー 「発・作アンカー、食アンカーでのプログラムの企画書をつくらう」

企画書タイトル:

背景・現状の課題

企画内容
※いつやるのか、具体的に何をやるのか(誰に何を、どうやって)、可能であればイラストなども添える。

この企画によって何が実現するのか

自分たちにとってこのアンカーはどんな場所か、キャッチフレーズを付けてみよう。

グループメンバー名

企画書タイトル

内容が一目でわかり、興味を引くようなタイトルを考える。

企画内容

企画の目的を踏まえて、誰に、どうやって取り組むのか、いつ何をするのか、実現するための具体的な方法を書く。
※開館後だけでなく“今”できることも意識する。
※イラストを添えると読む人にとってイメージが伝わりやすくなります。

キャッチフレーズ

企画を考えただけで、そのアンカーは自分たちにとってどんな場所か、キャッチフレーズを考えてみましょう。

対話のルール

- 何を話してもいい。意見が変わってしまってもいい。
- 人の言うことに対して否定的な態度をとらない。
- ひととの対話の時間を大切する。発言は1回につき1分におさめる。
- 発言しないで黙って聞いて考えているだけでもいい。
- お互いに問いを投げかけることが大切。
- 知識ではなく、自分の経験にそくして話す。
- 話がまとまらなかつたり、わからなくなってもいい。
- みんなで黙ってもいい。
- まとめなくてもいい。